

タイは海中も観光地。ダイビングライセンス取得記

バンコック駐在員事務所

新宅 令康

サワディーカップ。ご存知かもしれませんが、タイは今年 4,000 万人の観光客が訪れると見込まれている世界有数の観光地です。バンコクや世界遺産のあるアユタヤ以外にもプーケットやピピ島、タオ島、リペ島のようにタイには幾つもの美しいビーチと海が点在しています。

タイの一部の島では海洋の透明度は非常に高く、ジンベエザメやマンタなどを間近で観察できる可能性があることから、世界中よりダイバーが訪れる世界最高クラスのダイビングスポットとなっています。

そこで、私は海中という「未知の観光地」に関心を持ち、ダイビングライセンスを取得することを決意しました。

私が申ししたのは PADI オープンウォーターというエントリーレベルのライセンスです。このライセンスを取得すると 2 人以上のダイバーと水深 18m まで潜ることが可能となります。尚、ダイビングライセンスには有効期限がないため、一度取得すると一生有効な資格となり、世界中の海でスキューバダイビングが楽しめます。

ダイビングライセンス取得には「学科とプール講習」で 1 日、「海洋実習」が別途 2 日必要になります。泳ぎは得意なので特段の不安はありませんでした。プール講習で感触を掴み、一回目の海洋実習へ期待が高まります。

しかし、そこで大きな落とし穴が待ちました。海洋実習の際、ダイビングスポットまでボートで移動するのですが、そのボートの中で酷い船酔いになってしまいました。ダイビングの前日は飲酒を抑え、十分な睡眠を取り、当日の朝食は油物を避けるということが必要らしいのですが、全てを実践できなかった私は気持ち悪くてとてもダイビングを楽しむどころではありませんでした。何とか海には入ったのですが、ただ一刻も早く海の中から脱出したいという思いだけです。その日は根性だけで何とか乗り切り、二回目の海洋実習に向けてリベンジを誓いました。



『船酔いに苦しむ筆者』



『神秘的な海中』

その後、少し期間が空いたのですが、二回目の海洋実習に臨みました。前日は飲酒を避け、早寝を心掛け、朝起きてからは軽い朝食と酔い止め薬で準備万端です。ダイビングスポットに向けてボートに乗り込んだ際には、前回の船酔いの悪夢が蘇ってきましたが、今回は大丈夫です。「今度こそはダイビングを楽しめる」と期待が高まりました。

結果的には、水中でちょっとしたアクシデントはあったものの、ダイビングの魅力の一端を感じることができました。詳細は紙面の都合上割愛しますが、「海中の観光地」はとても神秘的でした。

二回目の海洋実習の約2週間後に無事ライセンスカードが自宅に届けられました。ライセンス取得後、まだ実践でのダイビングは行っておりませんが、機会があれば是非行ってみたいと思っています。

ダイビングのライセンスは集中すれば3日程度で取得できますので、タイにお越しの際は、「海外でダイビングライセンスの取得」も思い出の旅になること間違いなしです。何といても一生有効な資格ですから。